

⑬出向者報告

(公社)日本青年会議所 東北地区協議会
広報ブランディング委員会 総括幹事 柳沼 綾

まずは、本年度、公益社団法人日本青年会議所東北地区協議会広報ブランディング委員会への出向に送り出していただいた廣瀬理事長をはじめとするすべてのメンバーに感謝を申し上げます。

わたしは入会初年度から欠かさず出向を続けてきましたが、東北地区協議会への出向の機会はこれまでになく、初めての経験でした。噂に聞いていた「地区はおもしろくないよ」というネガティブな印象、実際に出向してみたらまるで違っていました。出向したメンバー構成に恵まれていたこともあると思いますが、巡り合わせも良く、会っただけで前向きになれるような「ザ・JAYCEE」という面々に囲まれ、1年があつという間でした。委員会メンバー全員が感じたことですが、顔に迷いや悩みが出てしまうほど深刻だった武田委員長の表情が、年末に向けてどんどん晴れやかになっていき、最後は自信さえ感じられるような風格になりました。それが、委員会全員の最高の喜びになりましたし、色々な事業実施があつたにも関わらず一番の思い出になったといっても過言ではありません。

事業としては6つも職務分掌がおりてくるなかなかの試練の委員会でした。現実的にはアイデアもあってアプローチもしたけれど、思うような結果に繋がらなかった事業もありました。しかし、「無理そうだね」「なしで良いよね」という手抜きや諦めを口にするメンバーはいませんでした。知恵を絞り合って向き合う姿勢がありました。世界中に東北の魅力を発信して東北のファンをつくる、という内容は、わたしとしては一番興味があつた事業内容でした。今回の出向をきっかけに、今後自分のライフワークの中でも、どうしたら世界中に東北のファンをつくれるのか、地域のファンをつくれるのか、深堀して取り組んでいきたいと思っています。

大きな事業としては、やはり地区協議会最大の発信の場である、秋の東北青年フォーラムです。ここでは、地区アワードの表彰式を当委員会が担当しました。司会は男女の組み合わせに、ということで、数年ぶりにわたしが司会を務めさせていただいたのは良い思い出になりました。ステージから表彰の際に名前を呼ばれて飛び上がる姿を見たらこちらまで感動してしまい、ステージの上でじわじわとこみ上げそうになる涙を抑えるのに必死でした。当日あんなに頑張って準備を重ねてきた武田委員長が感染症の影響で現地に来られなくなったことが逆に「ピンチはチャンス」となり、メンバー全員が一丸となる気持ちが加速した瞬間でもありました。遠隔から現地にいないことを感じさせないほど動く武田委員長、機転をきかせて細かなところをフォローしていくメンバーたち、そんな中安心して司会とタイムキーパーに集中することが出来、表彰式としての完成度もかなり高いものになったと思います。これまで何度もアワードを担当する委員会に出向し、表彰式を設営してきましたが、この地区アワードが最も内容が充実して質も高い良い事業でした。

出向こそ他団体にはない青年会議所の最大のメリットです。この出向で体験したことや得た学びを次の1年でLOMに還元してまいります。また、わたしと同じように、より多くのメンバーがこれからの出向の機会を自分でつかみ取れるよう、背中を押せるよう尽力したいと思います。

学びや成長の機会と、大切な出会いを今年も頂戴しましたこと、心よりありがとうございました。